

当ファンドの仕組みは次の通りです。

| | | |
|--------|---|--|
| 商品分類 | 追加型投信／国内／株式 | |
| 信託期間 | 2009年1月30日（当初設定日）から無期限です。 | |
| 運用方針 | 信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。 | |
| 主要投資対象 | 当ファンド | ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド受益証券 |
| | マザーファンド | わが国の株式 |
| 運用方法 | マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国のナンバーワン企業*の株式に投資します。 *ナンバーワン企業とは、優れたブランド力、技術力、商品・サービス開発力およびマーケティング力を有し、業界トップシェアを誇る企業、または今後それが期待される企業を指します。 | |
| 主な投資制限 | 当ファンド | ①株式への実質投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。 |
| | マザーファンド | ①株式への投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。 |
| 分配方針 | 毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 | |



PICTET

ピクテ日本ナンバーワン・
ファンド(毎月決算実績分配型)
愛称：NO.1

運用報告書(全体版)

第131期(決算日2020年2月20日) 第134期(決算日2020年5月20日)
第132期(決算日2020年3月23日) 第135期(決算日2020年6月22日)
第133期(決算日2020年4月20日) 第136期(決算日2020年7月20日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「ピクテ日本ナンバーワン・ファンド(毎月決算実績分配型)」は、2020年7月20日に第136期の決算を行いましたので、第131期から第136期までの運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ピクテ投信投資顧問株式会社

東京都千代田区丸の内2-2-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

電話番号 03-3212-1805

受付時間：委託者の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページ：www.pictet.co.jp

■最近5作成期の運用実績

| | 決算期 | 基準価額 | | | 参考指数 | | 株式 組入比率 | 純資産 総額 |
|------------|-------------------|--------|------------|-----------|--------|-----------|------------|-----------|
| | | (分配落) | 税込み 分配金 | 期中 騰落率 | | 期中 騰落率 | | |
| | | 円 | 円 | % | | % | % | 百万円 |
| 第19 作成期 | 107期(2018年2月20日) | 11,181 | 0 | △ 7.1 | 26,759 | △ 6.8 | 97.1 | 8,063 |
| | 108期(2018年3月20日) | 10,871 | 0 | △ 2.8 | 26,067 | △ 2.6 | 97.0 | 8,397 |
| | 109期(2018年4月20日) | 11,024 | 210 | 3.3 | 26,839 | 3.0 | 98.7 | 8,990 |
| | 110期(2018年5月21日) | 11,235 | 210 | 3.8 | 27,799 | 3.6 | 98.3 | 9,459 |
| | 111期(2018年6月20日) | 10,868 | 0 | △ 3.3 | 26,885 | △ 3.3 | 97.7 | 9,899 |
| | 112期(2018年7月20日) | 10,841 | 0 | △ 0.2 | 26,798 | △ 0.3 | 97.2 | 10,173 |
| 第20 作成期 | 113期(2018年8月20日) | 10,524 | 0 | △ 2.9 | 25,989 | △ 3.0 | 97.1 | 10,063 |
| | 114期(2018年9月20日) | 10,898 | 165 | 5.1 | 27,463 | 5.7 | 99.1 | 10,522 |
| | 115期(2018年10月22日) | 10,373 | 25 | △ 4.6 | 26,251 | △ 4.4 | 97.7 | 10,110 |
| | 116期(2018年11月20日) | 9,992 | 0 | △ 3.7 | 25,174 | △ 4.1 | 96.6 | 10,010 |
| | 117期(2018年12月20日) | 9,378 | 0 | △ 6.1 | 23,504 | △ 6.6 | 93.9 | 9,505 |
| | 118期(2019年1月21日) | 9,578 | 0 | 2.1 | 24,307 | 3.4 | 97.3 | 9,750 |
| 第21 作成期 | 119期(2019年2月20日) | 9,832 | 0 | 2.7 | 25,040 | 3.0 | 98.0 | 9,950 |
| | 120期(2019年3月20日) | 9,780 | 0 | △ 0.5 | 25,064 | 0.1 | 98.3 | 9,760 |
| | 121期(2019年4月22日) | 9,968 | 35 | 2.3 | 25,403 | 1.4 | 97.7 | 9,822 |
| | 122期(2019年5月20日) | 9,471 | 0 | △ 5.0 | 24,404 | △ 3.9 | 97.8 | 9,222 |
| | 123期(2019年6月20日) | 9,655 | 0 | 1.9 | 24,495 | 0.4 | 98.4 | 9,271 |
| | 124期(2019年7月22日) | 9,611 | 0 | △ 0.5 | 24,475 | △ 0.1 | 98.1 | 9,057 |
| 第22 作成期 | 125期(2019年8月20日) | 9,438 | 0 | △ 1.8 | 23,697 | △ 3.2 | 97.9 | 8,780 |
| | 126期(2019年9月20日) | 10,112 | 0 | 7.1 | 25,427 | 7.3 | 98.3 | 9,077 |
| | 127期(2019年10月21日) | 10,245 | 35 | 1.7 | 25,869 | 1.7 | 98.5 | 8,984 |
| | 128期(2019年11月20日) | 10,558 | 0 | 3.1 | 26,863 | 3.8 | 97.2 | 8,794 |
| | 129期(2019年12月20日) | 10,795 | 0 | 2.2 | 27,532 | 2.5 | 98.4 | 8,434 |
| | 130期(2020年1月20日) | 10,875 | 0 | 0.7 | 27,749 | 0.8 | 98.0 | 8,109 |
| 第23 作成期 | 131期(2020年2月20日) | 10,413 | 0 | △ 4.2 | 26,642 | △ 4.0 | 98.9 | 7,659 |
| | 132期(2020年3月23日) | 7,952 | 0 | △ 23.6 | 20,568 | △ 22.8 | 96.9 | 5,822 |
| | 133期(2020年4月20日) | 8,929 | 40 | 12.8 | 23,079 | 12.2 | 97.4 | 6,478 |
| | 134期(2020年5月20日) | 9,398 | 0 | 5.3 | 24,084 | 4.4 | 97.6 | 6,810 |
| | 135期(2020年6月22日) | 9,919 | 0 | 5.5 | 25,440 | 5.6 | 98.4 | 7,043 |
| | 136期(2020年7月20日) | 10,000 | 0 | 0.8 | 25,444 | 0.0 | 98.8 | 7,014 |

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注2) 当ファンドは、マザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」は、実質比率を記載しています。

(注3) 参考指数は配当込みTOPIXで、設定日(2009年1月30日)を10,000として指数化したものです。

■当作成期中の基準価額と市況等の推移

| 決算期 | 年月日 | 基準価額 | | 参考指数 | | 株式 組入比率 |
|-------|----------------|--------|--------|--------|--------|------------|
| | | 円 | 騰落率 | | 騰落率 | |
| 第131期 | (期首)2020年1月20日 | 10,875 | — | 27,749 | — | 98.0 |
| | 1月末 | 10,541 | △ 3.1 | 26,800 | △ 3.4 | 98.3 |
| | (期末)2020年2月20日 | 10,413 | △ 4.2 | 26,642 | △ 4.0 | 98.9 |
| 第132期 | (期首)2020年2月20日 | 10,413 | — | 26,642 | — | 98.9 |
| | 2月末 | 9,426 | △ 9.5 | 24,047 | △ 9.7 | 98.8 |
| | (期末)2020年3月23日 | 7,952 | △ 23.6 | 20,568 | △ 22.8 | 96.9 |
| 第133期 | (期首)2020年3月23日 | 7,952 | — | 20,568 | — | 96.9 |
| | 3月末 | 8,825 | 11.0 | 22,606 | 9.9 | 97.1 |
| | (期末)2020年4月20日 | 8,969 | 12.8 | 23,079 | 12.2 | 97.4 |
| 第134期 | (期首)2020年4月20日 | 8,929 | — | 23,079 | — | 97.4 |
| | 4月末 | 9,218 | 3.2 | 23,589 | 2.2 | 97.5 |
| | (期末)2020年5月20日 | 9,398 | 5.3 | 24,084 | 4.4 | 97.6 |
| 第135期 | (期首)2020年5月20日 | 9,398 | — | 24,084 | — | 97.6 |
| | 5月末 | 9,782 | 4.1 | 25,197 | 4.6 | 98.1 |
| | (期末)2020年6月22日 | 9,919 | 5.5 | 25,440 | 5.6 | 98.4 |
| 第136期 | (期首)2020年6月22日 | 9,919 | — | 25,440 | — | 98.4 |
| | 6月末 | 9,870 | △ 0.5 | 25,149 | △ 1.1 | 98.2 |
| | (期末)2020年7月20日 | 10,000 | 0.8 | 25,444 | 0.0 | 98.8 |

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は各期首比です。

(注2) 当ファンドは、マザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」は、実質比率を記載しています。

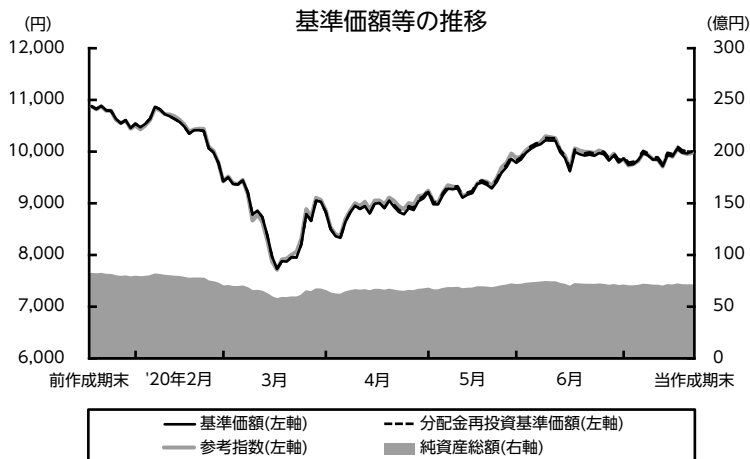
(注3) 参考指数は配当込みTOPIXで、設定日(2009年1月30日)を10,000として指数化したものです。

■当作成期中の運用状況と今後の運用方針（2020年1月21日から2020年7月20日まで）

1. 基準価額等の推移

当作成期の分配金再投資基準価額*は、7.6%の下落となりました。

*分配金再投資基準価額は、購入時手数料等を考慮せず、税引前分配金を再投資した場合の評価額を表します。以下同じ。



○基準価額の high・安値

| 決算期 | 期首 | 期中高値 | 期中安値 | 期末 |
|-------|---------|---------|---------|---------|
| 第131期 | 20/1/20 | 20/1/22 | 20/2/18 | 20/2/20 |
| | 10,875円 | 10,885円 | 10,346円 | 10,413円 |
| 第132期 | 20/2/20 | 20/2/21 | 20/3/16 | 20/3/23 |
| | 10,413円 | 10,397円 | 7,734円 | 7,952円 |
| 第133期 | 20/3/23 | 20/4/17 | 20/3/24 | 20/4/20 |
| | 7,952円 | 9,051円 | 8,206円 | 8,969円 |
| 第134期 | 20/4/20 | 20/5/20 | 20/4/22 | 20/5/20 |
| | 8,929円 | 9,398円 | 8,786円 | 9,398円 |
| 第135期 | 20/5/20 | 20/6/8 | 20/5/22 | 20/6/22 |
| | 9,398円 | 10,220円 | 9,287円 | 9,919円 |
| 第136期 | 20/6/22 | 20/7/15 | 20/7/10 | 20/7/20 |
| | 9,919円 | 10,056円 | 9,718円 | 10,000円 |

※参考指数は前作成期末の基準価額に合わせて指数化しています。

(注) 各期末の基準価額は分配金込みです。

◇主な変動要因

下落↓ ・実質的に組入れている三井不動産（不動産業）、パーク24（不動産業）、オリックス（その他金融業）、アサヒグループホールディングス（食料品）、東日本旅客鉄道（陸運業）などの株価が下落したこと

2. 投資環境

当作成期の日本株市場は、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）による急激な景気・企業業績悪化への懸念を背景に下落となりました。期初は、米中協議の進展、景気・企業業績の改善期待、米株高などを背景に堅調に推移しました。しかし2月後半から3月半ばにかけ、新型コロナウイルスのパンデミックにより経済活動が制限されるなかで、景気・企業業績の急激な悪化への警戒感から大幅下落を演じました。その後は、各国の政府・中央銀行による政策対応への期待や日銀のETF買入額増加などを背景に反発に転じました。後半には、先進国での新規感染者数の減少、経済活動再開への動き、治療薬およびワクチン開発への期待等から戻り歩調で推移し、6月にTOPIXは節目の1,600台を約3ヶ月ぶりに一旦は回復しました。期末にかけては新型コロナの感染再拡大・第2波への懸念が続く中、上値の重い展開ながら、TOPIXは年初来高値から3月安値までの下落幅の2/3を取り戻した水準での終了となりました。

3. 組入状況

当ファンドが主要投資対象とするピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド受益証券への投資比率を高位に維持してまいりました。

<マザーファンドの組入状況>

主としてわが国のナンバーワン企業*の株式に投資してまいりました。

*ナンバーワン企業とは、優れたブランド力、技術力、商品・サービス開発力およびマーケティング力を有し、業界トップシェアを誇る企業、または今後それが期待される企業を指します。

組入銘柄の選択に当たっては、企業の利益成長に着目し、高い利益成長が期待できる銘柄に投資してまいりました。

◇組入上位10業種

【前作成期末】

| 業種名 | 組入比率 |
|----------|-------|
| 電気機器 | 16.6% |
| 輸送用機器 | 9.4% |
| 化学 | 9.0% |
| 小売業 | 7.8% |
| 精密機器 | 6.3% |
| 情報・通信業 | 6.1% |
| 機械 | 5.9% |
| 医薬品 | 3.9% |
| ガラス・土石製品 | 3.9% |
| 不動産業 | 3.8% |

【当作成期末】

| 業種名 | 組入比率 |
|--------|-------|
| 電気機器 | 21.2% |
| 輸送用機器 | 9.2% |
| 小売業 | 7.9% |
| 化学 | 7.5% |
| 精密機器 | 6.4% |
| 情報・通信業 | 6.0% |
| 機械 | 4.6% |
| 医薬品 | 3.9% |
| サービス業 | 3.8% |
| 食料品 | 3.6% |

業種別では、電気機器やサービス業などの比率が上昇しました。一方、ガラス・土石製品や化学などの比率は低下しました。

◇組入上位10銘柄

【前作成期末】

| 銘柄名 | 業種名 | 組入比率 |
|-------------|--------|------|
| ソニー | 電気機器 | 2.5% |
| 日本電信電話 | 情報・通信業 | 2.4% |
| 富士通 | 電気機器 | 2.3% |
| イビデン | 電気機器 | 2.2% |
| ニトリホールディングス | 小売業 | 2.2% |
| 信越化学工業 | 化学 | 2.2% |
| 日本電産 | 電気機器 | 2.2% |
| トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 2.2% |
| ダイキン工業 | 機械 | 2.1% |
| 島津製作所 | 精密機器 | 2.1% |

【当作成期末】

| 銘柄名 | 業種名 | 組入比率 |
|-------------|--------|------|
| 富士通 | 電気機器 | 2.5% |
| ソニー | 電気機器 | 2.4% |
| ダイキン工業 | 機械 | 2.4% |
| 東京エレクトロン | 電気機器 | 2.4% |
| HOYA | 精密機器 | 2.3% |
| 日本電産 | 電気機器 | 2.3% |
| ニトリホールディングス | 小売業 | 2.3% |
| 信越化学工業 | 化学 | 2.3% |
| 日本電信電話 | 情報・通信業 | 2.2% |
| イビデン | 電気機器 | 2.2% |

(注) 組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

当作成期末の組入上位銘柄は、

- － 富士通 : 情報サービス事業で国内NO.1。サーバをはじめとするITハードとソフト開発や運用管理などのサービスを両輪とする成長戦略を展開。
- － ソニー : CMOSイメージセンサーで世界NO.1。スマートフォンの高機能化が追い風、中期的には車載向けにも期待。ゲーム、映画・音楽も世界大手の一角。
- － ダイキン工業 : 業務用エアコンで国内NO.1。環境規制強化は追い風。同社の強みである省エネ空調製品の、グローバルな中期的拡大ポテンシャルは大きい。
- － 東京エレクトロン : 半導体製造装置で国内NO.1。半導体の微細化要求の高まりによる受注回復に期待。
- － HOYA : 眼鏡レンズ国内NO.1、世界2位、HDD用ガラスサブストレート、半導体用マスクブランクス世界NO.1。ライフケア、情報・通信事業を両輪に成長見込む。

などとなりました。

4. 収益分配金

当作成期中の収益分配は、基準価額の水準および市況動向等を勘案し、以下のとおりとしました。各決算期の分配金の計算過程につきましては、15ページをご覧ください。

なお、収益分配にあてなかった留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

◇分配金および分配原資の内訳

(単位：円・%、1万口当たり、税引前)

| 項目 | 第131期 | 第132期 | 第133期 | 第134期 | 第135期 | 第136期 |
|-----------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| | 自 2020年1月21日 至 2020年2月20日 | 自 2020年2月21日 至 2020年3月23日 | 自 2020年3月24日 至 2020年4月20日 | 自 2020年4月21日 至 2020年5月20日 | 自 2020年5月21日 至 2020年6月22日 | 自 2020年6月23日 至 2020年7月20日 |
| 当期分配金 | － | － | 40 | － | － | － |
| (対基準価額比率) | － | － | 0.446 | － | － | － |
| 当期の収益 | － | － | 40 | － | － | － |
| 当期の収益以外 | － | － | － | － | － | － |
| 翌期繰越分配対象額 | 3,202 | 3,202 | 3,246 | 3,247 | 3,247 | 3,259 |

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、当ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下を切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

5. 今後の運用方針

(1) 投資環境

2020年7月後半の日本株市場は、比較的狭いレンジでの一進一退の推移となっています。期待先行で経済活動再開による景気・企業業績の回復を織り込む形で、ここまで3月の安値を底に大幅に上昇してきたうえ、新型コロナウイルスの感染再拡大・第2波への懸念が高まっているだけに、上値の重さが意識される神経質な展開が続きそうです。香港情勢等を巡る米中对立激化への懸念も重荷となります。さらなる上昇に向けては、コロナ後の景気・企業業績の回復時期およびその度合いへの見通し向上が待たれます。したがって当面の株式市場は、新型コロナウイルスの感染動向、経済活動再開、各国の政府・中央銀行による政策対応、米中对立、7月下旬から本格化の第1四半期（4－6月）決算などを睨みつつ、回復が期待される年度後半以降の景気・企業業績の先行きおよび企業の稼ぐ力を見極めて行く展開が予想されます。

(2) 投資方針

ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてわが国のナンバーワン企業の株式に投資してまいります。

<マザーファンド>

優れたブランド力、技術力、商品・サービス開発力、マーケティング力などを有し、業界トップシェアを誇るナンバーワン企業の選別に引き続き注力しパフォーマンス向上に努めてまいります。

■ 1万口（元本10,000円）当たりの費用明細

| 項目 | 当作成期(第131期～第136期) (2020年1月21日～2020年7月20日) | | 項目の概要 |
|-----------------------|--|-------------------|---|
| | 金額 | 比率 | |
| 平均基準価額 | 9,610円 | — | 作成期中の平均基準価額（月末値の平均値）です。 |
| (a) 信託報酬 (投信会社) | 76円 (37) | 0.793% (0.383) | (a) 信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価 ・購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価 ・ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価 |
| (販売会社) | (37) | (0.383) | |
| (受託会社) | (3) | (0.027) | |
| (b) 売買委託手数料 (株式会社) | 4 (4) | 0.046 (0.046) | (b) 売買委託手数料＝作成期中の売買委託手数料÷作成期中の平均受益権口数 ・売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (c) その他費用 (監査費用) | 2 (0) | 0.021 (0.003) | (c) その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数 ・監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・その他は、目論見書、運用報告書等法定の開示書類の作成等に要する費用その他信託事務の処理等に要する諸費用 |
| (その他) | (2) | (0.018) | |
| 合計 | 82 | 0.860 | |

(注1) 上記の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、設定・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目毎に小数第3位未満は四捨五入しています。

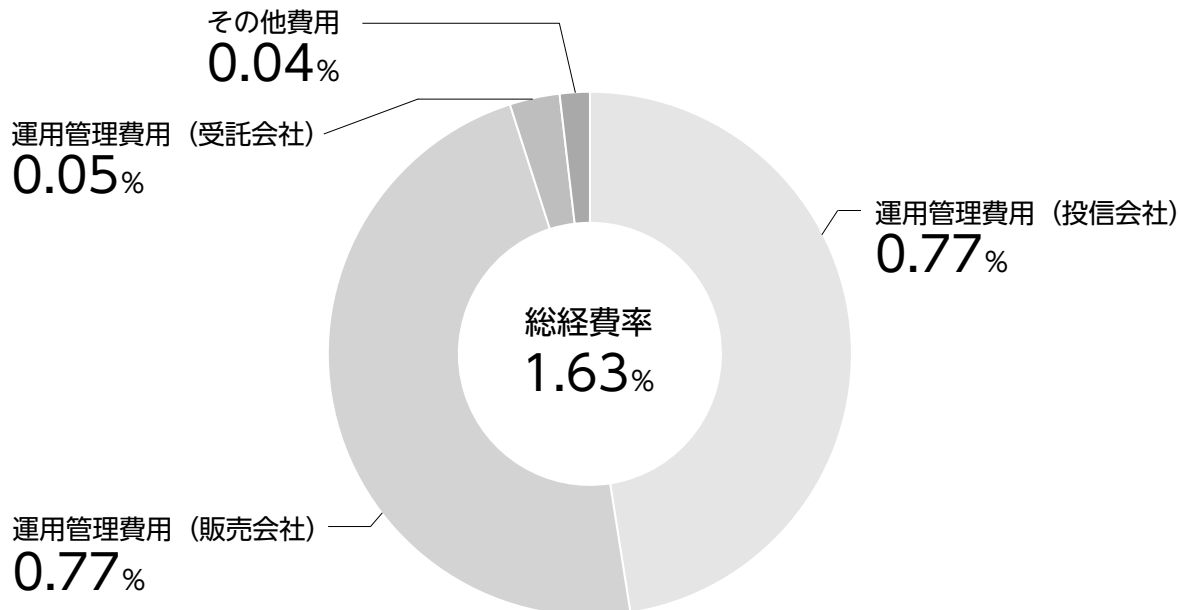
(注3) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものをみます。

(注4) 各金額の円未満は四捨五入しています。

(参考情報)

■総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.63%**です。



(注1) 上記の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■親投資信託受益証券の設定、解約状況 (2020年1月21日から2020年7月20日まで)

| 決算期 | 第131期～第136期 | | | |
|---------------------|--------------|---------------|---------------|---------------|
| | 設定 | | 解約 | |
| | 口数 | 金額 | 口数 | 金額 |
| ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド | 千口 65,790 | 千円 153,180 | 千口 284,054 | 千円 679,960 |

(注) 単位未満は切り捨てています。

■親投資信託における株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

| 項目 | 第131期～第136期 |
|----------------------|-------------|
| (a) 過去6ヵ月の株式売買金額 | 2,214,721千円 |
| (b) 過去6ヵ月の平均組入株式時価総額 | 7,829,471千円 |
| (c) 売買高比率(a)/(b) | 0.28 |

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注2) 単位未満は切り捨てています。

■親投資信託における主要な売買銘柄 (2020年1月21日から2020年7月20日まで)

株式

| 第131期～第136期 | | | | | | | |
|---------------|------|---------|--------|-------------|-------|---------|--------|
| 買付 | | | | 売付 | | | |
| 銘柄 | 株数 | 金額 | 平均単価 | 銘柄 | 株数 | 金額 | 平均単価 |
| | 千株 | 千円 | 円 | | 千株 | 千円 | 円 |
| リクルートホールディングス | 39.6 | 172,575 | 4,357 | エービーシー・マート | 22.5 | 158,518 | 7,045 |
| 東京エレクトロン | 6.6 | 157,133 | 23,808 | 栗田工業 | 39.4 | 118,229 | 3,000 |
| ファーストリテイリング | 2.9 | 143,980 | 49,648 | A G C | 43.9 | 109,817 | 2,501 |
| 村田製作所 | 25.9 | 140,992 | 5,443 | 東レ | 201.2 | 95,614 | 475 |
| 三菱商事 | 46.2 | 106,092 | 2,296 | 住友ベークライト | 36.5 | 81,469 | 2,232 |
| 住友金属鉱山 | 31.9 | 104,422 | 3,273 | ニトリホールディングス | 3.3 | 62,592 | 18,967 |
| 三井不動産 | 16.4 | 32,452 | 1,978 | 富士通 | 4.9 | 62,198 | 12,693 |
| 日本碍子 | 15.1 | 21,934 | 1,452 | ツルハホールディングス | 3.6 | 52,972 | 14,714 |
| パーク24 | 9.5 | 19,998 | 2,105 | エフピコ | 5.4 | 43,438 | 8,044 |
| 三和ホールディングス | 21.3 | 19,920 | 935 | ダイキン工業 | 2.4 | 40,784 | 16,993 |

(注1) 金額は受渡代金です。

(注2) 金額・平均単価の単位未満は切り捨てています。

■利害関係人との取引状況等 (2020年1月21日から2020年7月20日まで)

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

■自社による当ファンドの設定・解約状況 (2020年1月21日から2020年7月20日まで)

該当事項はありません。

■特定資産の価格等の調査 (2020年1月21日から2020年7月20日まで)

該当事項はありません。

■組入資産の明細 (2020年7月20日現在)

親投資信託残高

| 種類 | 第22作成期末 (第130期末) | 第23作成期末 (第136期末) | |
|---------------------|---------------------|---------------------|-----------|
| | 口数 | 口数 | 評価額 |
| | 千口 | 千口 | 千円 |
| ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド | 3,046,866 | 2,828,602 | 6,988,061 |

(注) 単位未満は切り捨てています。

<参考情報>

下記は、当ファンドが組入れているピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド全体(3,306,010千口)の内容です。

国内株式 上場株式

| 銘柄 | 第22作成期末 | 第23作成期末 | | 銘柄 | 第22作成期末 | 第23作成期末 | |
|------------------|---------|---------|---------|--------------------|---------|---------|---------|
| | 株数 | 株数 | 評価額 | | 株数 | 株数 | 評価額 |
| | 千株 | 千株 | 千円 | | 千株 | 千株 | 千円 |
| 建設業(2.2%) | | | | パルプ・紙(1.9%) | | | |
| コムシスホールディングス | 57.1 | 54.7 | 176,407 | レンゴー | 196 | 181.4 | 151,287 |
| 食料品(3.6%) | | | | 化学(7.6%) | | | |
| アサヒグループホールディングス | 34.7 | 38.6 | 142,048 | クラレ | 104.5 | 114 | 128,706 |
| 不二製油グループ本社 | 52.2 | 51.7 | 150,550 | 信越化学工業 | 15.7 | 14.4 | 186,120 |
| 繊維製品(-%) | | | | 住友バークライト | 36.5 | - | - |
| 東レ | 201.2 | - | - | 花王 | 21.2 | 19.3 | 164,918 |

| 銘柄 | 第22作成期末 | | 第23作成期末 | |
|-----------------------|---------|-------|---------|-----|
| | 株数 | 株数 | 株数 | 評価額 |
| | 千株 | 千株 | 千株 | 千円 |
| エフピコ | 21.4 | 16 | 136,640 | |
| 医薬品(3.9%) | | | | |
| 塩野義製薬 | 24.1 | 26 | 162,760 | |
| 参天製薬 | 87.7 | 80.8 | 152,873 | |
| ゴム製品(1.7%) | | | | |
| ブリヂストン | 36 | 39 | 134,862 | |
| ガラス・土石製品(1.9%) | | | | |
| AGC | 43.9 | — | — | |
| 日本碍子 | 88.2 | 102.5 | 151,495 | |
| 非鉄金属(1.3%) | | | | |
| 住友金属鉱山 | — | 31.9 | 104,791 | |
| 金属製品(1.8%) | | | | |
| 三和ホールディングス | 133.7 | 153.8 | 143,187 | |
| 機械(4.6%) | | | | |
| 小松製作所 | 58.5 | 58 | 136,184 | |
| ダイキン工業 | 12.2 | 9.8 | 192,668 | |
| 栗田工業 | 55.7 | 16.3 | 48,737 | |
| 電気機器(21.3%) | | | | |
| イビデン | 74.3 | 59.8 | 179,699 | |
| 日立製作所 | 41.6 | 41.2 | 144,200 | |
| 日本電産 | 12.6 | 24.4 | 186,416 | |
| 富士通 | 19.4 | 14.5 | 201,840 | |
| ソニー | 28.6 | 23.5 | 193,851 | |
| キーエンス | 4.4 | 4 | 178,440 | |
| ファナック | 7.3 | 7.2 | 149,076 | |
| 村田製作所 | — | 25.9 | 170,422 | |
| 小糸製作所 | 29.4 | 29.1 | 132,114 | |
| 東京エレクトロン | — | 6.6 | 192,192 | |
| 輸送用機器(9.3%) | | | | |
| 豊田自動織機 | 27.2 | 25.6 | 147,712 | |
| デンソー | 33.3 | 33 | 136,092 | |
| トヨタ自動車 | 25.3 | 25.1 | 170,529 | |
| 本田技研工業 | 49 | 48.6 | 135,934 | |
| シマノ | 9.4 | 7.5 | 160,725 | |
| 精密機器(6.5%) | | | | |
| テルモ | 47.7 | 40.7 | 167,317 | |
| 島津製作所 | 59 | 58.5 | 170,235 | |
| HOYA | 18.1 | 17.5 | 187,250 | |
| 陸運業(3.2%) | | | | |
| 東日本旅客鉄道 | 16.9 | 16.7 | 119,488 | |

| 銘柄 | 第22作成期末 | | 第23作成期末 | |
|---------------------|---------|-------|---------|-----------|
| | 株数 | 株数 | 株数 | 評価額 |
| | 千株 | 千株 | 千株 | 千円 |
| 日立物流 | 48.4 | 48 | 144,480 | |
| 情報・通信業(6.1%) | | | | |
| トレンドマイクロ | 27.1 | 26.9 | 169,739 | |
| 日本電信電話 | 75.4 | 70.3 | 180,600 | |
| NTTドコモ | 58.6 | 47.1 | 140,993 | |
| 卸売業(1.3%) | | | | |
| 三菱商事 | — | 46.2 | 106,698 | |
| 小売業(8.0%) | | | | |
| エービーシー・マート | 22.5 | — | — | |
| セブン&アイ・ホールディングス | 40.9 | 43.8 | 153,781 | |
| ツルハホールディングス | 13.1 | 9.5 | 138,700 | |
| ニトリホールディングス | 11.6 | 8.3 | 186,335 | |
| ファーストリテイリング | — | 2.9 | 169,940 | |
| 銀行業(3.3%) | | | | |
| 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 312 | 309.2 | 130,946 | |
| ふくおかフィナンシャルグループ | 74.6 | 79.2 | 135,115 | |
| 保険業(1.8%) | | | | |
| 東京海上ホールディングス | 29.8 | 30.3 | 143,106 | |
| その他金融業(1.5%) | | | | |
| オリックス | 88.5 | 98.8 | 123,697 | |
| 不動産業(3.4%) | | | | |
| パーク24 | 63.1 | 72 | 129,168 | |
| 三井不動産 | 62.4 | 78.2 | 145,452 | |
| サービス業(3.8%) | | | | |
| リクルートホールディングス | — | 39.2 | 138,728 | |
| セコム | 19.2 | 18.1 | 170,321 | |
| 合計 | 株数・金額 | 2,731 | 2,545 | 8,095,576 |
| | 銘柄数<比率> | 51銘柄 | 53銘柄 | <99.1%> |

(注1) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注2) 評価額欄の< >内は、当ファンドが組入れているマザーファンドの純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注4) —印は組入れがありません。

■投資信託財産の構成 (2020年7月20日現在)

| 項目 | 第23作成期末(第136期末) | |
|---------------------|-----------------|-------|
| | 評価額 | 比率 |
| | 千円 | % |
| ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド | 6,988,061 | 99.3 |
| コール・ローン等、その他 | 45,759 | 0.7 |
| 投資信託財産総額 | 7,033,820 | 100.0 |

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年2月20日)、 (2020年3月23日)、 (2020年4月20日)、 (2020年5月20日)、 (2020年6月22日)、 (2020年7月20日)現在

| 項目 | 第131期末 | 第132期末 | 第133期末 | 第134期末 | 第135期末 | 第136期末 |
|--------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| (A)資産 | 7,689,890,255円 | 5,835,365,821円 | 6,525,185,693円 | 6,841,927,259円 | 7,054,890,910円 | 7,033,820,834円 |
| 産 | | | | | | |
| コール・ローン等 | 31,973,137 | 30,806,629 | 28,661,078 | 42,226,241 | 33,874,277 | 35,329,393 |
| ピクテ日本ナンパーワン・マザーファンド(評価額) | 7,642,877,118 | 5,804,559,192 | 6,486,634,615 | 6,783,601,018 | 7,020,596,633 | 6,988,061,441 |
| 未収入金 | 15,040,000 | - | 9,890,000 | 16,100,000 | 420,000 | 10,430,000 |
| (B)負債 | 30,576,202 | 12,712,255 | 47,158,579 | 31,114,966 | 11,139,548 | 19,816,023 |
| 未払収益分配金 | - | - | 29,019,847 | - | - | - |
| 未払解約金 | 19,716,898 | 3,313,123 | 10,109,471 | 22,225,662 | 670,255 | 11,013,235 |
| 未払信託報酬 | 10,657,108 | 9,224,123 | 7,820,199 | 8,622,200 | 10,154,542 | 8,538,307 |
| 未払利息 | 87 | 77 | 78 | 121 | 97 | 96 |
| その他未払費用 | 202,109 | 174,932 | 208,984 | 266,983 | 314,654 | 264,385 |
| (C)純資産総額(A-B) | 7,659,314,053 | 5,822,653,566 | 6,478,027,114 | 6,810,812,293 | 7,043,751,362 | 7,014,004,811 |
| 元本 | 7,355,572,248 | 7,321,801,491 | 7,254,961,949 | 7,246,748,446 | 7,101,536,096 | 7,014,140,194 |
| 次期繰越損益金 | 303,741,805 | △ 1,499,147,925 | △ 776,934,835 | △ 435,936,153 | △ 57,784,734 | △ 135,383 |
| (D)受益権総口数 | 7,355,572,248口 | 7,321,801,491口 | 7,254,961,949口 | 7,246,748,446口 | 7,101,536,096口 | 7,014,140,194口 |
| 1万口当たり基準価額(C/D) | 10,413円 | 7,952円 | 8,929円 | 9,398円 | 9,919円 | 10,000円 |

<注記事項(当運用報告書作成時点では、監査未了です。)>

(貸借対照表関係)

(注1) 当ファンドの第131期首元本額は7,457,046,329円、第131～136期中追加設定元本額は375,095,804円、第131～136期中一部解約元本額は818,001,939円です。

(注2) 1口当たり純資産額は、第131期末1.0413円、第132期末0.7952円、第133期末0.8929円、第134期末0.9398円、第135期末0.9919円、第136期末1.0000円です。

(注3) 元本の欠損

当作成期末において貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は135,383円です。

■損益の状況

第131期(自2020年1月21日 至2020年2月20日) 第134期(自2020年4月21日 至2020年5月20日)
 第132期(自2020年2月21日 至2020年3月23日) 第135期(自2020年5月21日 至2020年6月22日)
 第133期(自2020年3月24日 至2020年4月20日) 第136期(自2020年6月23日 至2020年7月20日)

| 項目 | 第131期 | 第132期 | 第133期 | 第134期 | 第135期 | 第136期 |
|-----------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| (A)配当等収益 | △ 2,634円 | △ 2,494円 | △ 1,876円 | △ 3,081円 | △ 3,014円 | △ 2,801円 |
| 支払利息 | △ 2,634 | △ 2,494 | △ 1,876 | △ 3,081 | △ 3,014 | △ 2,801 |
| (B)有価証券売買損益 | △ 326,722,250 | △ 1,778,275,541 | 743,418,894 | 347,869,150 | 377,383,859 | 66,315,269 |
| 売 買 益 | 3,748,669 | 9,656,888 | 750,395,423 | 349,515,229 | 385,667,078 | 67,811,932 |
| 売 買 損 | △ 330,470,919 | △ 1,787,932,429 | △ 6,976,529 | △ 1,646,079 | △ 8,283,219 | △ 1,496,663 |
| (C)信託報酬等 | △ 10,859,217 | △ 9,399,055 | △ 8,029,384 | △ 8,889,296 | △ 10,469,307 | △ 8,802,806 |
| (D)当期損益金(A+B+C) | △ 337,584,101 | △ 1,787,677,090 | 735,387,634 | 338,976,773 | 366,911,538 | 57,509,662 |
| (E)前期繰越損益金 | △ 14,387,339 | △ 346,206,592 | △ 2,104,590,534 | △ 1,387,235,392 | △ 1,021,115,468 | △ 639,025,321 |
| (F)追加信託差損益金 | 655,713,245 | 634,735,757 | 621,287,912 | 612,322,466 | 596,419,196 | 581,380,276 |
| (配当等相当額) | (2,112,190,599) | (2,105,366,444) | (2,087,257,503) | (2,086,810,540) | (2,046,557,879) | (2,024,200,558) |
| (売買損益相当額) | (△ 1,456,477,354) | (△ 1,470,630,687) | (△ 1,465,969,591) | (△ 1,474,488,074) | (△ 1,450,138,683) | (△ 1,442,820,282) |
| (G)計(D+E+F) | 303,741,805 | △ 1,499,147,925 | △ 747,914,988 | △ 435,936,153 | △ 57,784,734 | △ 135,383 |
| (H)収益分配金 | 0 | 0 | △ 29,019,847 | 0 | 0 | 0 |
| 次期繰越損益金(G+H) | 303,741,805 | △ 1,499,147,925 | △ 776,934,835 | △ 435,936,153 | △ 57,784,734 | △ 135,383 |
| 追加信託差損益金 | 655,713,245 | 634,735,757 | 621,287,912 | 612,322,466 | 596,419,196 | 581,380,276 |
| (配当等相当額) | (2,112,192,144) | (2,105,374,266) | (2,087,369,532) | (2,086,812,530) | (2,046,557,446) | (2,024,213,987) |
| (売買損益相当額) | (△ 1,456,478,899) | (△ 1,470,638,509) | (△ 1,466,081,620) | (△ 1,474,490,064) | (△ 1,450,138,250) | (△ 1,442,833,711) |
| 分配準備積立金 | 243,652,730 | 239,662,008 | 268,226,854 | 266,618,265 | 259,714,566 | 261,893,307 |
| 繰越損益金 | △ 595,624,170 | △ 2,373,545,690 | △ 1,666,449,601 | △ 1,314,876,884 | △ 913,918,496 | △ 843,408,966 |

(注1) 損益の状況の中で**(B)有価証券売買損益**は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で**(C)信託報酬等**には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で**(F)追加信託差損益金**とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 第131期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(2,112,192,144円)および分配準備積立金(243,652,730円)より分配対象収益は2,355,844,874円(10,000口当たり3,202円)ですが、当計算期間に分配した金額はありません。

(注5) 第132期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(2,105,374,266円)および分配準備積立金(239,662,008円)より分配対象収益は2,345,036,274円(10,000口当たり3,202円)ですが、当計算期間に分配した金額はありません。

(注6) 第133期計算期間末における費用控除後の配当等収益(60,874,685円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(2,087,369,532円)および分配準備積立金(236,372,016円)より分配対象収益は2,384,616,233円(10,000口当たり3,286円)であり、うち29,019,847円(10,000口当たり40円)を分配金額としています。

(注7) 第134期計算期間末における費用控除後の配当等収益(499,163円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(2,086,812,530円)および分配準備積立金(266,119,102円)より分配対象収益は2,353,430,795円(10,000口当たり3,247円)ですが、当計算期間に分配した金額はありません。

(注8) 第135期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(2,046,557,446円)および分配準備積立金(259,714,566円)より分配対象収益は2,306,272,012円(10,000口当たり3,247円)ですが、当計算期間に分配した金額はありません。

(注9) 第136期計算期間末における費用控除後の配当等収益(8,204,546円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(2,024,213,987円)および分配準備積立金(253,688,761円)より分配対象収益は2,286,107,294円(10,000口当たり3,259円)ですが、当計算期間に分配した金額はありません。

＜分配金のお知らせ＞

当作成期中の収益分配は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して決定しました。各決算期の分配金および分配金の計算過程は以下の通りです。なお、収益分配にあてなかった留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

| | 第131期 | 第132期 | 第133期 | 第134期 | 第135期 | 第136期 |
|------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 1万口当たり分配金 | 0円 | 0円 | 40円 | 0円 | 0円 | 0円 |
| 費用控除後の配当等収益 | 0円 | 0円 | 60,874,685円 | 499,163円 | 0円 | 8,204,546円 |
| 費用控除後、繰越欠損金 補填後の有価証券売買等損益 | 0円 | 0円 | 0円 | 0円 | 0円 | 0円 |
| 収益調整金 | 2,112,192,144円 | 2,105,374,266円 | 2,087,369,532円 | 2,086,812,530円 | 2,046,557,446円 | 2,024,213,987円 |
| 分配準備積立金 | 243,652,730円 | 239,662,008円 | 236,372,016円 | 266,119,102円 | 259,714,566円 | 253,688,761円 |
| 分配対象収益 (1万口当たり) | 2,355,844,874円 (3,202円) | 2,345,036,274円 (3,202円) | 2,384,616,233円 (3,286円) | 2,353,430,795円 (3,247円) | 2,306,272,012円 (3,247円) | 2,286,107,294円 (3,259円) |
| 分配金額 (1万口当たり) | 0円 (0円) | 0円 (0円) | 29,019,847円 (40円) | 0円 (0円) | 0円 (0円) | 0円 (0円) |

- ◇ 分配金を再投資する場合
お手持り分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。
- ◇ 分配金をお支払いする場合
分配金のお支払いは、各決算日から起算して5営業日までに開始いたします。
- ◇ 分配金は普通分配金に課税され、個人の受益者の場合、源泉徴収の税率は20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。（原則として、確定申告は不要です。）
法人の受益者の場合、源泉徴収の税率は15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）となります。
（注）当作成期末現在で適用される内容であり、税制が改正された場合等は変更される場合があります。外貨建資産への投資により外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ◇ 元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

＜お知らせ＞

該当事項はありません。

ピクテ日本ナンバーワン・マザーファンド

運用状況のご報告

第11期（決算日：2020年1月20日）
（計算期間：2019年1月22日～2020年1月20日）

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第11期の運用状況をご報告申し上げます。

●当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

| | |
|--------|---|
| 運用方針 | 信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。 |
| 主要投資対象 | わが国の株式 |
| 主な投資制限 | 株式への投資割合…制限を設けません。 外貨建資産への投資割合…信託財産の純資産総額の30%以内とします。 |

■最近5期の運用実績

| 決算期 | 基準価額 | | 参考指数 | | 株式 組入比率 | 株式 先物比率 | 純資産 総額 |
|-----------------|--------|-----------|--------|-----------|------------|------------|-----------|
| | | 期中 騰落率 | | 期中 騰落率 | | | |
| | 円 | % | | % | % | % | 百万円 |
| 7期(2016年1月20日) | 17,969 | 0.1 | 19,474 | △ 2.3 | 96.2 | － | 10,926 |
| 8期(2017年1月20日) | 21,195 | 18.0 | 22,795 | 17.1 | 98.0 | － | 12,370 |
| 9期(2018年1月22日) | 26,723 | 26.1 | 28,722 | 26.0 | 96.2 | － | 11,556 |
| 10期(2019年1月21日) | 22,823 | △14.6 | 24,307 | △15.4 | 97.6 | － | 12,266 |
| 11期(2020年1月20日) | 26,527 | 16.2 | 27,749 | 14.2 | 98.4 | － | 9,110 |

(注1) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

(注2) 参考指数は配当込みTOPIXで、設定日(2009年1月30日)を10,000として指数化したものです。

■当期中の基準価額と市況等の推移

| 年月日 | 基準価額 | | 参考指数 | | 株式 組入比率 | 株式 先物比率 |
|------------|--------|-------|--------|-------|------------|------------|
| | | 騰落率 | | 騰落率 | | |
| (期首) | 円 | % | | % | % | % |
| 2019年1月21日 | 22,823 | － | 24,307 | － | 97.6 | － |
| 1月末 | 22,879 | 0.2 | 24,326 | 0.1 | 98.1 | － |
| 2月末 | 23,369 | 2.4 | 24,958 | 2.7 | 98.6 | － |
| 3月末 | 23,381 | 2.4 | 24,980 | 2.8 | 98.0 | － |
| 4月末 | 23,996 | 5.1 | 25,393 | 4.5 | 97.8 | － |
| 5月末 | 22,200 | △ 2.7 | 23,736 | △ 2.3 | 98.2 | － |
| 6月末 | 23,278 | 2.0 | 24,392 | 0.4 | 98.7 | － |
| 7月末 | 23,333 | 2.2 | 24,614 | 1.3 | 98.9 | － |
| 8月末 | 22,970 | 0.6 | 23,784 | △ 2.1 | 99.0 | － |
| 9月末 | 24,337 | 6.6 | 25,220 | 3.8 | 98.1 | － |
| 10月末 | 25,564 | 12.0 | 26,480 | 8.9 | 98.4 | － |
| 11月末 | 25,820 | 13.1 | 26,995 | 11.1 | 98.6 | － |
| 12月末 | 26,072 | 14.2 | 27,386 | 12.7 | 99.0 | － |
| (期末) | | | | | | |
| 2020年1月20日 | 26,527 | 16.2 | 27,749 | 14.2 | 98.4 | － |

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

(注3) 参考指数は配当込みTOPIXで、設定日(2009年1月30日)を10,000として指数化したものです。

■当期中の運用状況と今後の運用方針 (2019年1月22日から2020年1月20日まで)

1. 基準価額等の推移

当期の基準価額は、16.2%の上昇となりました。



○基準価額の高値・安値

| 期首 | 期中高値 | 期中安値 | 期末 |
|---------|---------|---------|---------|
| 19/1/21 | 20/1/20 | 19/6/3 | 20/1/20 |
| 22,823円 | 26,527円 | 21,990円 | 26,527円 |

※参考指数は期首の基準価額に合わせて指数化しています。

◇主な変動要因

当期前半

上昇▲・組入れている日立ハイテクノロジーズ（卸売業）、HOYA（精密機器）、ダイキン工業（機械）、参天製薬（医薬品）、日立製作所（電気機器）などの株価が上昇したこと

当期後半

上昇▲・組入れているイビデン（電気機器）、ソニー（電気機器）、HOYA（精密機器）、参天製薬（医薬品）、トレンドマイクロ（情報・通信業）などの株価が上昇したこと

2. 投資環境

日本株市場は、当期前半、米中の貿易摩擦問題に引き続き振られる展開ながら、米欧の利下げ観測の高まり、米株高などを支えに上昇となりました。期首から4月までは、2018年末の急落から戻す展開となり上昇基調で推移しました。米連邦準備理事会（FRB）の金融引き締めには慎重な「ハト派」姿勢への転換、米中問題の進展期待の高まり、堅調な米国景気、1ドル=112円台への円安・ドル高などが好感されました。しかし5月には、米国による中国製品への追加関税引き上げ、中国通信機器最大手の華為（ファーウェイ）への米国の輸出規制措置などを受けて米中貿易戦争激化への警戒感が再燃し、世界的な景気減速への懸念を強め一転して大幅下落となりました。その後は、パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長の発言などを受けた米国の利下げ観測の高まり、米中首脳会談の開催決定による米中問題の進展期待、米株高などから戻り歩調となったものの、景気・企業業績への減速懸念

は根強く、1ドル=107円台への円高・ドル安進行、中東情勢への懸念も重荷に上値の重い展開となりました。当期後半は米中通商協議の進展および企業業績の底入れ・改善への期待の高まりを背景に大幅上昇となりました。7月は、引き続き米中問題及び世界経済減速への警戒感から神経質な展開が続き、8月にはトランプ米政権による対中関税第4弾の発動表明などを受けて米中对立激化への懸念から急落を演じました。しかし、9月には米中の閣僚級協議の再開決定、欧米の金融緩和への期待などから反発に転じ、10月以降は米中通商協議での部分合意の方向が伝わり市場心理が好転する中で、7-9月期決算を通じた日本企業の業績底入れ期待、最高値更新の米国株、1ドル=109円台への円安・ドル高基調なども追い風に上昇基調で推移しました。12月には、英総選挙での与党大勝、米中貿易協定で「第1段階」合意との報道が伝わると先行き懸念の後退から一段高となり、日経平均は節目の2万4,000円台を約1年2カ月ぶりに回復しました。その後は中東情勢の緊迫化から急落場面があったものの、武力衝突への警戒が和らぐと短期間で下落分を取り戻し高値圏での終了となりました。

3. 組入状況

主としてわが国のナンバーワン企業*の株式に投資してまいりました。

*ナンバーワン企業とは、優れたブランド力、技術力、商品・サービス開発力およびマーケティング力を有し、業界トップシェアを誇る企業、または今後それが期待される企業を指します。

組入銘柄の選択に当たっては、企業の利益成長に着目し、高い利益成長が期待できる銘柄に投資してまいりました。

◇組入上位10業種

【期首】

| 業種名 | 組入比率 |
|--------|-------|
| 電気機器 | 13.1% |
| 化学 | 11.6% |
| 輸送用機器 | 7.9% |
| 小売業 | 7.9% |
| 機械 | 7.0% |
| 精密機器 | 6.1% |
| 情報・通信業 | 6.0% |
| 食料品 | 5.6% |
| サービス業 | 4.2% |
| 陸運業 | 4.0% |



【期末】

| 業種名 | 組入比率 |
|----------|-------|
| 電気機器 | 16.6% |
| 輸送用機器 | 9.4% |
| 化学 | 9.0% |
| 小売業 | 7.8% |
| 精密機器 | 6.3% |
| 情報・通信業 | 6.1% |
| 機械 | 5.9% |
| 医薬品 | 3.9% |
| ガラス・土石製品 | 3.9% |
| 不動産業 | 3.8% |

業種別では、電気機器やガラス・土石製品などの比率が上昇しました。一方、化学やサービス業などの比率は低下しました。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

◇組入上位10銘柄

【期首】

| 銘柄名 | 業種名 | 組入比率 |
|-------------------|--------|------|
| セブン&アイ・ホールディングス | 小売業 | 2.5% |
| 日本電信電話 | 情報・通信業 | 2.4% |
| トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 2.2% |
| セコム | サービス業 | 2.2% |
| 三井不動産 | 不動産業 | 2.2% |
| 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 銀行業 | 2.2% |
| 村田製作所 | 電気機器 | 2.1% |
| 島津製作所 | 精密機器 | 2.1% |
| デンソー | 輸送用機器 | 2.1% |
| アサヒグループホールディングス | 食料品 | 2.1% |

【期末】

| 銘柄名 | 業種名 | 組入比率 |
|-------------|--------|------|
| ソニー | 電気機器 | 2.5% |
| 日本電信電話 | 情報・通信業 | 2.4% |
| 富士通 | 電気機器 | 2.3% |
| イビデン | 電気機器 | 2.2% |
| ニトリホールディングス | 小売業 | 2.2% |
| 信越化学工業 | 化学 | 2.2% |
| 日本電産 | 電気機器 | 2.2% |
| トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 2.2% |
| ダイキン工業 | 機械 | 2.1% |
| 島津製作所 | 精密機器 | 2.1% |



(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

4. 今後の運用方針

(1) 投資環境

2020年1月の日本株市場は、米中貿易協議での「第1段階」合意、米イラン対立を巡る中東情勢への警戒感の和らぎ等から投資家心理が改善するなか、世界景気・企業業績の持ち直し期待に加え、米連邦準備理事会（FRB）をはじめとする主要中銀の緩和的な金融政策の継続、最高値更新の米株高、1ドル＝110円台への円安進行なども支えに中旬までは昨年来高値圏で堅調に推移してきました。しかし、景気・企業業績の底入れ・回復を先取りし期待先行で上昇してきた市場は、下旬には中国発の新型肺炎の感染拡大を受け、その世界経済への影響懸念から大幅下落を演じ警戒感を強めています。株価が反発・上昇に向かうには、新型肺炎の影響収束とともに、来期以降の企業業績の底入れ・回復への確信度の高まりが待たれそうです。したがって当面の株式市場は、新型肺炎拡大の動向・影響、依然として先行き懸念が残る米中問題の行方、中東を巡る地政学リスク、米欧の金融政策、中国の景気減速、為替市場などの外部環境をにらみつつ、来期以降の景気・企業業績の先行きを見極めて行く展開となりそうです。

(2) 投資方針

優れたブランド力、技術力、商品・サービス開発力、マーケティング力などを有し、業界トップシェアを誇るナンバーワン企業の選別に引き続き注力しパフォーマンス向上に努めてまいります。

■ 1万口（元本10,000円）当たりの費用明細

| 項目 | 当期 (2019年1月22日~2020年1月20日) | | 項目の概要 |
|----------------------|-------------------------------|-------------------|---|
| | 金額 | 比率 | |
| 平均基準価額 | 23,933円 | — | 期中の平均基準価額（月末値の平均値）です。 |
| (a) 売買委託手数料 (株 式) | 32円 (32) | 0.132% (0.132) | (a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (b) その他費用 (そ の 他) | 0 (0) | 0.000 (0.000) | (b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・ その他は、信託事務の処理に要する諸費用 |
| 合計 | 32 | 0.132 | |

(注1) 上記の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含みます）は、設定・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含みます）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、各項目毎に小数第3位未満は四捨五入しています。

(注3) 各金額の円未満は四捨五入しています。

■ 当期中の売買および取引の状況（2019年1月22日から2020年1月20日まで）

株式

| | | 買付 | | 売付 | |
|----|----|--------------|------------------|-------|-----------|
| | | 株数 | 金額 | 株数 | 金額 |
| 国内 | 上場 | 千株 | 千円 | 千株 | 千円 |
| | | 777 (106) | 1,997,220 (-) | 2,035 | 6,237,593 |

(注1) 金額は受渡代金です。

(注2) 単位未満は切り捨てています。

(注3) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

| 項目 | 当期 |
|-------------------|-------------|
| (a) 期中の株式売買金額 | 8,234,813千円 |
| (b) 期中の平均組入株式時価総額 | 9,985,419千円 |
| (c) 売買高比率(a)÷(b) | 0.82 |

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注2) 単位未満は切り捨てています。

■利害関係人との取引状況等 (2019年1月22日から2020年1月20日まで)

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

■特定資産の価格等の調査 (2019年1月22日から2020年1月20日まで)

該当事項はありません。

■主要な売買銘柄 (2019年1月22日から2020年1月20日まで)

株式

| 買付 | | | | 売付 | | | |
|-----------------|-------|---------|--------|-------------|-------|---------|-------|
| 銘柄 | 株数 | 金額 | 平均単価 | 銘柄 | 株数 | 金額 | 平均単価 |
| | 千株 | 千円 | 円 | | 千株 | 千円 | 円 |
| コムシスホールディングス | 73.1 | 212,933 | 2,912 | 日立ハイテクノロジーズ | 66.1 | 347,555 | 5,258 |
| レンゴー | 220.8 | 211,987 | 960 | 村田製作所 | 49.6 | 271,845 | 5,480 |
| ふくおかフィナンシャルグループ | 85.8 | 204,421 | 2,382 | 日本たばこ産業 | 80.7 | 225,170 | 2,790 |
| 小糸製作所 | 34.8 | 197,992 | 5,689 | 日本触媒 | 33.2 | 215,225 | 6,482 |
| 不二製油グループ本社 | 58.9 | 194,014 | 3,293 | 電通グループ | 45.5 | 213,968 | 4,702 |
| シマノ | 11.3 | 189,167 | 16,740 | マブチモーター | 56.6 | 213,136 | 3,765 |
| キーエンス | 2.9 | 186,102 | 64,173 | 住友電気工業 | 142.4 | 198,230 | 1,392 |
| 日本碍子 | 109.6 | 175,498 | 1,601 | 味の素 | 112.9 | 195,128 | 1,728 |
| パーク24 | 67.9 | 174,294 | 2,566 | クボタ | 115.5 | 186,014 | 1,610 |
| イビデン | 92.7 | 172,470 | 1,860 | HOYA | 21.2 | 173,419 | 8,180 |

(注1) 金額は受渡代金です。

(注2) 金額・平均単価の単位未満は切り捨てています。

■組入資産の明細 (2020年1月20日現在)

国内株式

上場株式

| 銘柄 | 期首 (前期末) | 当期末 | | 銘柄 | 期首 (前期末) | 当期末 | |
|-------------------|-------------|-------|---------|--------------------|-------------|-------|---------|
| | 株数 | 株数 | 評価額 | | 株数 | 株数 | 評価額 |
| | 千株 | 千株 | 千円 | | 千株 | 千株 | 千円 |
| 建設業(2.1%) | | | | パルプ・紙(1.8%) | | | |
| コムシスホールディングス | — | 57.1 | 186,431 | レンゴー | — | 196 | 162,484 |
| 食料品(3.7%) | | | | 化学(9.2%) | | | |
| アサヒグループホールディングス | 57.2 | 34.7 | 173,395 | クラレ | 142.6 | 104.5 | 142,433 |
| 不二製油グループ本社 | — | 52.2 | 155,556 | 信越化学工業 | 28.4 | 15.7 | 197,820 |
| 味の素 | 112.9 | — | — | 日本触媒 | 33.2 | — | — |
| 日本たばこ産業 | 80.7 | — | — | 住友ベークライト | 54 | 36.5 | 150,380 |
| 繊維製品(1.7%) | | | | 花王 | 32.2 | 21.2 | 191,690 |
| 東レ | 312.7 | 201.2 | 153,535 | エフピコ | 34.5 | 21.4 | 139,742 |

| 銘柄 | 期首 (前期末) | 当期末 | |
|-----------------------|-------------|-------|---------|
| | 株数 | 株数 | 評価額 |
| | 千株 | 千株 | 千円 |
| 医薬品(4.0%) | | | |
| 塩野義製薬 | 37 | 24.1 | 170,121 |
| 参天製薬 | 127.2 | 87.7 | 188,379 |
| 石油・石炭製品(-%) | | | |
| JXTGホールディングス | 124.4 | - | - |
| ゴム製品(1.6%) | | | |
| ブリヂストン | 55.6 | 36 | 144,756 |
| ガラス・土石製品(3.9%) | | | |
| AGC | 61.3 | 43.9 | 178,673 |
| 日本碍子 | - | 88.2 | 173,754 |
| 非鉄金属(-%) | | | |
| 住友電気工業 | 142.4 | - | - |
| 金属製品(1.8%) | | | |
| 三和ホールディングス | 203.3 | 133.7 | 165,788 |
| 機械(6.0%) | | | |
| 小松製作所 | 79.6 | 58.5 | 155,551 |
| クボタ | 115.5 | - | - |
| ダイキン工業 | 19 | 12.2 | 194,529 |
| 栗田工業 | 79.1 | 55.7 | 183,531 |
| 電気機器(16.9%) | | | |
| イビデン | - | 74.3 | 200,089 |
| 日立製作所 | 66.7 | 41.6 | 191,027 |
| マブチモーター | 56.6 | - | - |
| 日本電産 | 18.2 | 12.6 | 197,253 |
| 富士通 | 33.4 | 19.4 | 213,012 |
| ソニー | 45.7 | 28.6 | 228,542 |
| キーエンス | - | 4.4 | 175,340 |
| ファナック | 10.3 | 7.3 | 153,044 |
| 村田製作所 | 18.4 | - | - |
| 小糸製作所 | - | 29.4 | 152,880 |
| 輸送用機器(9.5%) | | | |
| 豊田自動織機 | 41.2 | 27.2 | 177,616 |
| デンソー | 50.9 | 33.3 | 167,199 |
| トヨタ自動車 | 40.2 | 25.3 | 196,834 |
| 本田技研工業 | 66.1 | 49 | 150,234 |
| シマノ | - | 9.4 | 164,312 |
| 精密機器(6.4%) | | | |
| テルモ | 39.2 | 47.7 | 189,559 |
| 島津製作所 | 107.5 | 59 | 194,405 |
| HOYA | 39.3 | 18.1 | 194,213 |

| 銘柄 | 期首 (前期末) | 当期末 | |
|---------------------|---------------|---------------|----------------------|
| | 株数 | 株数 | 評価額 |
| | 千株 | 千株 | 千円 |
| 陸運業(3.6%) | | | |
| 東日本旅客鉄道 | 23.9 | 16.9 | 168,847 |
| 日立物流 | 77.8 | 48.4 | 155,848 |
| 情報・通信業(6.2%) | | | |
| トレンドマイクロ | 36.2 | 27.1 | 159,077 |
| 日本電信電話 | 64.4 | 75.4 | 214,701 |
| NTTドコモ | 85.8 | 58.6 | 182,011 |
| 卸売業(-%) | | | |
| 日立ハイテクノロジーズ | 66.1 | - | - |
| 小売業(8.0%) | | | |
| エービーシー・マート | 35.1 | 22.5 | 160,875 |
| セブン&アイ・ホールディングス | 64 | 40.9 | 175,256 |
| ツルハホールディングス | 22.7 | 13.1 | 178,160 |
| ニトリホールディングス | 16.7 | 11.6 | 198,650 |
| 銀行業(3.7%) | | | |
| 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 463.9 | 312 | 181,927 |
| ふくおかフィナンシャルグループ | - | 74.6 | 149,946 |
| 保険業(2.0%) | | | |
| 東京海上ホールディングス | 46.5 | 29.8 | 182,048 |
| その他金融業(1.9%) | | | |
| オリックス | 135 | 88.5 | 166,203 |
| 不動産業(3.9%) | | | |
| パーク24 | - | 63.1 | 175,418 |
| 三井不動産 | 102.5 | 62.4 | 172,068 |
| サービス業(2.1%) | | | |
| 電通グループ | 45.5 | - | - |
| セコム | 29.6 | 19.2 | 186,048 |
| 合計 | 株数・金額 51銘柄 | 2,731 51銘柄 | 8,961,201 <98.4%> |

(注1) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率です。

(注2) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率です。

(注3) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注4) -印は組入れがありません。

■投資信託財産の構成

(2020年1月20日現在)

| 項目 | 当期末 | |
|--------------|-----------------|-----------|
| | 評価額 | 比率 |
| 株式 | 千円 8,961,201 | % 98.1 |
| コール・ローン等、その他 | 172,987 | 1.9 |
| 投資信託財産総額 | 9,134,188 | 100.0 |

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

(2020年1月20日現在)

| 項目 | 当期末 |
|-----------------|----------------|
| (A)資産 | 9,134,188,480円 |
| コール・ローン等 | 50,612,893 |
| 株式(評価額) | 8,961,201,720 |
| 未収入金 | 100,124,967 |
| 未収配当金 | 22,248,900 |
| (B)負債 | 23,836,137 |
| 未払解約金 | 23,836,000 |
| 未払利息 | 137 |
| (C)純資産総額(A-B) | 9,110,352,343 |
| 元本 | 3,434,329,644 |
| 次期繰越損益金 | 5,676,022,699 |
| (D)受益権総口数 | 3,434,329,644口 |
| 1万口当たり基準価額(C/D) | 26,527円 |

<注記事項>

(貸借対照表関係)

| | |
|-----------------------------|----------------|
| (注1) 期首元本額 | 5,374,469,213円 |
| 期中追加設定元本額 | 232,548,914円 |
| 期中一部解約元本額 | 2,172,688,483円 |
| (注2) 1口当たり純資産額 | 2,6527円 |
| (注3) 期末における元本の内訳 | |
| ビクテ日本ナンパーワン・ファンド(毎月決算実績分配型) | 3,046,866,081円 |
| iTrust日本株式 | 387,403,272円 |
| ビクテ日本ナンパーワン・ファンド(適格機関投資家専用) | 60,291円 |

■損益の状況

当期(自2019年1月22日 至2020年1月20日)

| 項目 | 当期 |
|-----------------|-----------------|
| (A)配当等収益 | 235,543,901円 |
| 受取配当金 | 235,651,434 |
| 受取利息 | 47 |
| その他収益金 | 8,473 |
| 支払利息 | △ 116,053 |
| (B)有価証券売買損益 | 1,234,125,976 |
| 売買益 | 1,606,262,735 |
| 売買損 | △ 372,136,759 |
| (C)その他費用等 | △ 10,141 |
| (D)当期損益金(A+B+C) | 1,469,659,736 |
| (E)前期繰越損益金 | 6,891,848,764 |
| (F)追加信託差損益金 | 318,742,086 |
| (G)解約差損益金 | △ 3,004,227,887 |
| (H)計(D+E+F+G) | 5,676,022,699 |
| 次期繰越損益金(H) | 5,676,022,699 |

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)その他費用等にはその他費用に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<お知らせ>

該当事項はありません。